



中小企業の再生支援

社団法人 中小企業診断協会 兵庫県支部
支部長 水口可保

『年々歳歳花相似たり、年々歳歳人同じからず』自然界では花のシーズンを迎えて梢が新芽に変わり、日増しに新緑があふれています。

私達の人間社会では相変わらず長期不況が続いています。中小企業は激しい構造変化の中で、生き残りに知恵を絞り、有望な活路を求めて努力しています。

そのような中で、中小企業の事業再生を支援するために、『中小企業再生支援協議会』が平成15年3月に全国で28ヶ所設置されました。兵庫県では神戸商工会議所に設置され、県下全域の案件に対処することになりました。早速3月より中小企業や関係機関へのPRや窓口相談が始まり、その活躍が期待されています。

この『再生支援協議会』には21名の委員が選任され、(社)中小企業診断協会からは兵庫県支部長が参加しています。又、支援業務を担当する支援業務部には、相談窓口担当のサブマネージャーとして内池副支部長が就任し、活動を開始しています。

『再生支援協議会』は大手企業の再生に取り組む『産業再生機構』や『整理回収機構(RCC)』に準ずる組織です。中小企業の再生を図るために『再生支援協議会』には、
・中小公庫、商工中金、国民生活公庫及び地域金融機関、兵庫県、近畿経済産業局、近畿財務局等が参加する。
・診断士、弁護士、会計士等の専門家によりケースバイケースで『相談・助言』、『取引や政策金融等の斡旋』、『事業改善実施計画の作成支援』等に対応する...ということになっています。

中小企業再生の目標としては、次のような既存事業の改善等によって、収支を改善し再生を実現します。

- ① 新規事業分野への転換
- ② 新規販路の開拓
- ③ 合理化によるコスト削減
- ④ 他社との合併・統合等

この改善内容から明らかなように、真に中小企業診断士の専門分野であり、これまでに蓄積してきた中小企業支援のノウハウをフルに発揮できる業務です。

しかし、一方では企業再生には次のような問題点も考えられます。

- ① 相談や助言によって信用不安を招かないか
厳格な守秘対策
- ② 再生に必要な人材・技術・資金を確保できるか
迅速な事前診断
- ③ 新事業への転換や新規販路の開拓をタイムリーに実現できるか
ネットワークの活用
- ④ 多くの改善策をタイムリーに実行できるか
助言だけでなく実務支援

いずれにしても、人の病気と同様『早期発見・早期治療』が企業再生のカギになります。中小企業の経営者には、気軽に経営相談や企業診断を活用してもらいたいものです。

わが国の産業基盤を支えている中小企業の活性化を図るために、これまでの創業支援・経営革新・新産業創造等の支援以上に中小企業診断士の実務能力を活用してもらいたいものです。会員のご活躍を期待します。

経営のヒント “老舗企業の経営方針に学ぶ”

企業の置かれている経営環境は厳しいものがあります。商品のライフサイクルが短くなり、企業の寿命も短命化しています。そこで、企業の迅速な対応こそが「企業の生き残り」の道であると言われていました。

私は江戸時代の商家の家訓・家憲と100年以上続いている大阪の老舗企業調査などから長年の苦難を乗り越え、今も盛業中の企業経営のポイントをつかむことができました。

その中で最も強調され、再認識したのは

「企業家とは経済活動だけでなく社会活動にも適用される」、「企業家とは変化を探し、変化に適応し、変化を機会として利用するものである」といった奉仕の精神と経営革新への姿勢でした。

目先の利益を追求するあまり、好ましからぬ行為に走り、企業の存亡を問われることも少なくありません。

改めて、近江商人の「三方よし」、石田梅岩の「売利の本質」の精神を読み取る必要があるように思われます。

副支部長 高島和也

◆ ◆ 診 断 事 例 ◆ ◆ ◆

最近の労働事情と診断士



兵庫県支部会員
山田 修身

新聞・雑誌など、いずれを見ても不況の大合唱である。

さらにリストラの文字や声を聞くことも多い。

私の仕事柄、職安にも良く行くが、職安の混み方が日によって差があるものの以前ほどでも無くなった気がする。そのところを窓口で尋ねてみたら、西脇職安管内の有効求人倍率が昨年1月に0.49倍だったものが今年の1月は0.69倍に、有効求人数も昨年1月から今年1月にかけて23.4%増加しており改善されてきているのである。兵庫県全体で見ると、有効求人倍率は昨年1月に0.40倍だったが今年1月は0.47倍とやはり増加している。

こうした増加がいつ頃から始まったのかを見てみると、昨年(平成14年)の9月以降から徐々に上向き始めているようである。しかも右肩上がりで徐々にあがっていることから、もしかすると平成15年度は意外に労働環境が改善される年になるかも知れない。

3月19日、新神戸オリエンタルホテルで平成14年度ひょうご経営革新賞の発表式があった。会場では多くの診断士ともお会いでき楽しいひとときを過ごさせていただいた。今年度の表彰企業はクリーンテックスジャパン株式会社であるが、私は昨年表彰の株式会社神島組社長さんと休憩時間に少しお話をさせていただいた。神島組では、毎朝6時半に社長が出勤する。すると従業員は7時には全員が会社または現場に到着しているそうである。そして、7時には各現場から今日の仕事の段取りの連絡が入り、出社している社員からも報告がなされる。社長が用有って6時頃に出社するようになると、何も言わないのに社員は6時半頃に全員が集まるとのこと。社長さんから話を伺うたびに、この従業員のモチベーションの高さに驚かされてしまう。

姫路の北方に夢前町がある、この町に株式会社大野製材所と株式会社ユメックスという会社がある。縁があって一昨年に大野製材所に、昨年はユメックスに訪問させていただいた。いずれも素晴らしい経営を実現されている会社である。大野製材所は社長が若く従業員が社長を慕っていることがひしひしと感じられる。ユメックスはIC等の露光用特殊ランプの開発製造会社で平成14年度に売上高・利益共に大きく伸ばされており社長さんと共に社長さんの両脇をかためる部長さんが良くやられている。こうした印象を強く持たせて頂いた企業である。

良い企業を見させていただいていると、いくつかの共通項目が浮かび上がってくる。

- ① 何をやっている会社であるかが良く分かる
- ② 社長のリーダーシップが適切に発揮されている
- ③ 組織として動くための仕組みを作られている
- ④ 経営者が従業員に非常に慕われている
- ⑤ 従業員が自分が何をすべきなのかが常に分かっており、出来ている

多くの中小企業において、①と②は出来ていると言われる経営者は多いと思われる。

しかし、上記の③④⑤が出来ている企業は多くはない。ゆえに、ここを実現させて行くことのお手伝いが診断士である自分に課せられた役割であると認識をして平成15年度を迎えている。

..... 診断士の社会貢献

「人と防災未来センター」で 語り部のボランティア活動

兵庫県支部理事
千田 徹夫



脇浜海岸通（神戸市中央区、JR 灘駅南）に昨年 4 月末に新設された阪神淡路大震災記念モニュメントの人と防災未来センターの、防災未来館で、震災体験の語り部のボランティア活動を続けている。

我が家は、あの時、間一髪倒壊を免れたが、被害激甚だった本山中町界隈に間近い。当日からかかりつけの医者の手伝いをし、罹災した方々の暮らしにも身近で接し続けてきた。偶々趣味の短歌でこうした体験や感慨を作品に残して来た。この記録を元に余暇にでも話そうかと申し込んだら採用されたのである。

模索しつつ始めた語り部活動だが、全国各地からの来館者、中でも修学旅行や家族連れの若い世代は、共感を持って私達の苦しみ、悲しみを心の深い所で受止めてくれる。こんな来館者に、私は勇気づけられ、お役に立つ話をと心を籠め、工夫を重ねたので更に新たに学ぶことが出来たと思う。

例えば、極限状況での体験を語るうちに、21 世紀の生き方として、便利な現代文明に頼りすぎずに、積極的に現実に対処する素直な優しい味のある生き方をと、話し合うこともできた。当館での見聞が災害時に自らの身を守るため役立つようにとの願いから、若い人たちと「必要なときにちゃんと頭に浮かび役立つような」学習の仕方を話あうことも多い。

語り部として私の話の概要を最近のメモから引用すると、

人には生来自らの身を守る力がある。それを活かす学習を

体験してみて、幸運もふくめ、反射的動作等で難を免れている。当館では災害時にどんな危険に対処するのが学習ができる。幼い方等へは怖いような展示を、目を逸らさず必要なとき思い出そう心留めて学ぶようお勧めしている。

外科医に協力し、極限状態下自分で考え「出来ることから」行動

あの日、ライフラインが壊れ 119 番応答無しのような極限状態で「今何が要るか、出来ることは何か」を見つめ自分で考え出来ることから行動した。

身を削るような親切や無償の救援が、この町を勇気づけ、復興へ立上らせてくれた

僅かの水を惜しまず負傷者の為と下さる等、小さくても身を削るような親切や、各地からの無償の救援が皆を勇気づけ助け合いと復興へと立上らせてくれた。

人のために役立つ喜びの格別の貴さを若い方々に早く体験して欲しいと思うほどだ。

罹災者と苦哀を共にし、人の復興の喜びに涙する優しさが生まれた

父の命は覚悟したと友が自分自身に言い聞かせるように言った等、身近に苦しみ悲しみを共にしたから、再建の家に帰って来た、春のいかなごを煮るなどの喜びに共に胸躍らせ涙する優しさが生まれて来た。

元気に再建を果たした商店主の意気と戦略

角店だから先ず仮設店ででも灯を掲げると意気高い若い商人は、地酒の新戦略を掲げ、再建を果たした。一方ついに再建できぬ商業施設もあった。

心のうたであの時を顧み、21 世紀の生き方も語合いましょう

同人誌の自作短歌を記録とし心の動きの細部も語っていると、時に語合いは、謙虚に、命を慈しみ、自らの考えで行動等、新時代の生き方にまで及びます。

当館や語り部の伝えるものは、21 世紀を生きる人に普遍性を持つと感じはじめただけに、少しでも多くの人と、より心を通わせて語合いたいと願うに至っている。

あの時身を削るような助け合いが私達の町を救ったように、私達の無償の活動は、世の中に何か大切なものを伝えうると信じる。肩書きは外してボランティアのつもりだが、長年の習性でつい、組織の運営は気になる。来館者がまた来たい、人に勧めたいと思って下さるように、真心籠めて活動したい。来館者が好感と感動を抱いて、人にも薦めてもらえるような活動が大切だと考えて、近日は他の語り部の講話を聴き勉強し、出来ることから自分が実行していかなばと、考えている。

この無償の活動は私自身をも大いにモチベートしてくれる。診断士活動とは無縁と見える震災語り部として活動していて、現今の救いようの無いように見える状況のもとでの企業の生きる道が見えてきたようにも思える。今一度生きると言うことの原点に立ち戻って生き方を改め経営活動の立て直しを図ることは、きっと可能であると考え。

委員会だより

診断支援委員会からのお知らせ

当委員会では、会員の職域拡大のための商品作りと展開に取り組んでいますが、今年度も「起業塾」をはじめ「経営革新セミナー」、「個別企業向け経営相談」などの企画をたてています。

しかしながら、当委員会のメンバーはわずか2名と少なく、支援センターや商工会・商工会議所、業界団体などに対して、それら企画案の採用を呼びかけるにはマンパワーが不足しています。

つきましては会員各位にお願いです。

- ① 当委員会の役割と主旨にご賛同の上、委員会メンバーとしてご参加頂く有志を募っています。
- ② 企画商品を、貴方の最寄りの各関係機関や業界団体に提案して下さい。

企画は出来ても、当委員会だけで全県下に、提案活動することは不可能です。

そこで、交通費は自弁でお願いしますが、貴方の訴求で提案先が採用した場合、優先的に担当講師をお願いしたいと思えます。よろしくご協力お願い申し上げます。

「ひょうご元気企業交流会」スタート

プロジェクト開発委員会

本年1月来の活動経過と当面の予定をご報告致します。

- (1)「ひょうごオンリーワン(HOO)総研」発足：平成15年1月

この会の目標(当面)

- 1) 元気企業及びオンリーワン企業づくりを支援する。
- 2) 診断士・コンサルが活躍する「舞台とブランド」づくりを実施してゆく。

- (2)「ひょうご元気企業交流会(第1回)」キック・オフ 実施要領下記の通り

今、“元気なプロジェクト”をパネラーにお呼びし、元気企業交流会のキック・オフにふさわしい会を計画しています。会員及び関係者のご参加をお待ちしています。

「ひょうご元気企業交流会」(第1回) 参加費：3千円

日時 場所	テーマ 「元気プロジェクトに学ぶ、元気な企業の条件」	講師
6月11日(水) 14時～17時 神戸市産業振興センター	＜パネルディスカッション＞	
	①「長田“ぼっかけブーム”と町起こし」 “ながたを修学旅行の町に！タクシー会社社長”	ながたTMO 森崎 清登氏
	②「我社の“ぼっかけ”商品開発プロジェクト」 “売れてなんぼ。顧客感覚を優先する開発リーダー”	MCC食品(株) 田中 政行氏
	③「“お笑い研究会”が企業を変える」 “笑いで会社を活性化する元信用金庫支店長”	NPO会長 矢野 宗宏氏
	④コーディネーター “マーケティング、商業振興専門の実践的研究者”	甲南大学教授 西村 順二氏

委員会だより

「診断技術向上研究会」参加のご案内

診断技術向上研究会という勉強会をご存知ですか？

兵庫県支部では「自主研究会」の次に、平成11年から始まった、歴史と由緒のある勉強会です。今までにExcelを活用したデータ分析手法やアイデア、プロセッサなどのソフトウェアツールの勉強、また具体的な企業訪問を通じた診断支援などを行っており、パソコンを活用して一歩先をみた勉強をわきあいあいと行ってきました。今まで、あまり広報活動をしていなかったのですが、期も変わり今回新メンバーを募ることにしました。参加資格は情報技術に興味を持ち、メールアドレスがいくことくらいです。

ちなみに本年度は6月ころから「企業診断」にも掲載されました「診断士とデータマイニング」の勉強会を1～2ヶ月に1回、5回シリーズで開催を予定しています。

貴殿も、情報に強い診断士を目指しませんか？ 皆様のご参加を心からお待ちしています

「診断技術向上研究会」のこれまでの実績と今後の予定

	勉強会のテーマ	講師
平成11年度	マイクロソフトオフィスの高度活用について	外部講師を参加者でもちまわり
平成12年度	企業部門と診断報告	参加者が企業に訪問して報告書作成
平成13年度	ITビジネスのトレンドを学ぶ	IT関連の社長に依頼
平成14年度	エクセルの機能を再レビューする	外部講師に依頼
平成15年度	中小企業とデータマイニング(企業診断から)	平成15年度6月から5回程度実施予定

会則を <http://www.act-con.jp/shindan> にアップしています。ご参考にしてください。

問い合わせ先：会員研修委員会 大森 (act@cup.com) まで

企業内診断士の皆さんへ

企業内診断士の皆さん、次のような思いを抱いている方はいませんか？

- ・ 診断士の資格を取ったが(兵庫県支部に加入したが) それを活かす場がない。
- ・ 三次実習などで身に付けた診断技術・知識が衰えるばかりだ。
- ・ 企業内でも活かせるノウハウを身につけたい。
- ・ 将来の独立開業に向けてコンサル技術を習得したい。
- ・ 他の企業内診断士たちと交流を図りたい(人脈づくりをしたい)。

そこで、会員研修委員会では、異業種交流の「企業内診断士活性化研究会(仮称)」を起ち上げたいと考えています。早ければ6月頃、遅くとも今秋にはスタートさせるべく現在会員を募集しています。

内容としては、独立に向けてのコンサル技術の習得、事例研究、論文発表、執筆(共同出版)などが考えられますが、テーマや進め方、会費などは参加メンバーで自由に決めてもらって結構です。会員研修委員会は、「会」が軌道に乗るまでサポートしていきます。

現在のところ、数人が参加意思を表明されています。参加したい意向の方は、

会員研修委員会 大場 (kohba@alles.or.jp) または

大森 (act@cup.com) までご連絡願います。



自主研究会抄録

1 月度研究会 テーマ：中小製造業の製品開発支援方法
(インターネットを利用した支援方法)

講師：支部会員 中上 義春氏
日時：平成 15 年 1 月 14 日(火) 18:00 ~ 20:00
場所：神戸市産業振興センター 902 号室



1. 中小製造業を取巻く環境

円高を背景とする親企業生産拠点の海外移転、中国を代表とする東南アジア諸国の生産能力の急拡大と高度化による日本国内製造業の空洞化進展が指摘され、既に 10 年が過ぎようとしています。ここで、再度現状の環境を点検し、今後の進路を考える一助としたいと思います。

- 1) 現状の海外直接投資の状況は？：合計約 500 億ドル、意外と少ない中国投資約 2% 程度 / 2000 年ベース
- 2) 今後の海外直接投資は？：米国、ドイツの海外生産比率は約 30%、日本は 15%
- 3) 国内事業所は？：年平均 12 万事業所が減少している。(内製造業は 3 万事業所)

2. 製品開発に見る活路

国内製造業の縮小傾向は現時点においても進行しています。しかも、今後も継続する可能性が大とせざるを得ません。この現状を前に、国内中小製造業の活路の大きな柱として新製品・新技術開発がクローズアップされます。

- 1) 研究費から見た研究活動の現状：日本は GDP 比 3.2% 程度で国際的にもハイレベル
- 2) 製品開発を支援する制度の現状
 - ・ T L O : 承認 T L O が 27 機関、認定 T L O が 2 機関、国内出願 2,043 件、技術移転契約件数 356 件(平成 14 年 3 月末現在累計)
 - ・ 特許流通事業：シーズ登録 46,283 件(平成 14 年 9 月時点)、成約 890 件(平成 13 年度)
 - ・ 異業種交流会：兵庫県下で 50 団体が登録

3. 製品開発支援へのインターネット活用

一般的な中小製造業が製品開発に取り組むには次のような問題点が指摘されます。① 研究資金、② 研究者等の人的資源、③ 情報、④ 販路等の不足、これらの問題を解決、または解決のためのヒントを得る手段として、インターネットを効果的に活用することを提言します。公的機関を中心とした開示内容や付加サービスの充実により、従来はかなり困難を伴うことの多かった調査等が極めて容易で、高度なものとなっています。これら利用できる H P を開発段階別に整理してみました。

- 1) シーズ発見の支援 : 特許流通データベース、T L O 他
- 2) シーズの評価支援
 - ・ マーケット : DND 市場調査コーナ他
 - ・ 評価機関 : テイクオフ大阪 21 他
- 3) 開発の支援
 - ・ 技術 : テクノナレッジ・ネットワーク、NIRO TT 他
 - ・ 資金 : 融資制度検索コーナ他
- 4) 販売の支援 : 兵庫ビジネス モール他

2 月度研究会 テーマ：スモール企業の高収益経営の秘密

講師：(株)オガワ印刷 代表取締役 小川 和男氏
日時：平成 15 年 2 月 3 日(月) 18:00 ~ 20:00
場所：神戸市産業振興センター 904 号室

当社は、生業的な小さな町の印刷屋として創業し、中小企業同友会の交流の影響もあって、人材育成・法人成り・新市場開拓等努力を重ね、皮のラベルの印刷技術開発に成功して一旦は経営の安定を見た。しかし 1 つの技術 1 つの取引先による成功は長くは続かず、さらに大震災で活版の活字が散乱して使えなくなったのを契機に、デジタル化した。同時にオペレーターが店頭で、来店客に対応し、例えばチラシのデザインの相談に乗り、内容決定・受注条件の詰め・生産・納入と代金回収等までの一連の業務を一人で処理するスタイルを生み出し、隣接して 2 号店も開いた。



自主研究会抄録

日々時間を取って話し合い、売上目標を立て、決算もガラス張りにして、動機づけするなど人材育成は進めて居る。社員は皆この仕事が好きでのびのびと働く。だが、好きなデザインの相談に時間をかけすぎたり、最後の校正にミスが出たりと原価や品質の意識が足りぬ等悩みも多い。

興味深い企業経歴の話が佳境に入ったかと思えたとき、司会者で講師推薦者でもあるO氏は中断、「参加診断士から、より儲かる企業となるための自由な提案」を求めた。かねて研究会の改革・活性化を訴えるO委員が今回の自主研究会で、会員の診断業務改善に直結する研修との視点で1つの提案をしたと思われる。

思いがけぬ展開だが、流石はわが支部の会員、人材育成のための細かなコツから就業規則の整備法など実践的な手法、新たな市場開拓の考え方、アメンバー経営のような木目細かな業績管理の導入、等多彩な提言があり、講師は真剣にメモを取り聞き入っていた。

恒例の会場を変えた課外論議の場でも真剣な対話があり、講師小川社長の謙虚な受け入れぶけりが印象的であった。経営者のこうした態度は、企業の改善の条件の一つともいえる。

今回の委員による研究会のあり方の大胆な実験は一応の成果を上げたと思えてよい。だが、参加者からの提案の内容にばらつきが見えるなど、更に委員と参加者の知恵を集めた改革が望まれる。
(文責：千田徹夫)

3月度研究会 テーマ：岡山県視察旅行・武蔵の里視察

～15年度NHK大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」ゆかりの地を訪ねて～

日 時：平成15年3月15日(土)
参加者：15名

NHK大河ドラマは、舞台となる地域にとって今や手っ取り早い観光客誘致策で、町おこしの絶大な効果をもたらしている。しかし、放映が終了すると、その反動で閑古鳥が鳴いている。一過性のイベントとして捉えるのではなく、いかにリピート客を増やすかが命題となる。

そこで3月度例会は、いまNHK大河ドラマ「武蔵 MUSASHI」で話題の剣聖宮本武蔵ゆかりの地を訪ねた。武蔵の生誕地はいくつかの説があるが、武蔵が実際に少年時代まで過ごしたといわれる岡山県英田郡大原町の武蔵の里へ出向いた。

ここ大原町も大河ドラマ放映を絶好のビジネスチャンスとするのは当然で、町挙げての取り組みようである。以前の駐車場は未舗装の空き地で無料であったが、今は広く舗装されて有料となっている。武蔵資料館前では、武蔵と小次郎、沢庵和尚に扮装した3人の大原町職員が、面白おかしく巖流島決闘を演じてくれる。彼らは観光ガイドも兼ね、寸劇後我々を案内してくれた。しかしながら、お目当てのお通がないのは何故だ！いればリピート客は絶対増えるのに...(と、某診断士がぼやいていた)。

土産物に関しては、大原町商工会も店を出し、地域産品をPRしている。武蔵資料館内のみやげ物コーナーは武蔵一色である。こしあんと粒あん二味の刀風のもちが「二刀流もち」として売り出されており、武蔵にあやかる商魂はたくましい。さすがに、ペナントや武蔵のミニチュア人形(横に「根性」と書いた棒入りの置物)はなかった。大河ドラマのタイトル画(「武蔵MUSASHI」のマーク)入りお菓子をよく見ると、NHKの子会社名のシールが全て貼ってある。売上の数パーセントが使用料としてNHKに入る仕組みなのであろう。(NHKの商魂もたくましい！)

全体的に何処にでも売っている土産物が多く、その土地でしか買えないものが少ない。特に、道端のたこ焼きの出店は興ざめである。史跡だけが良くても観光客は満足しない。観光客のフローは、駐車場 史跡見学 土産物、であり、これら全てで一つの“商品”である。何か一つ欠けると満足感が得られず、リピートとはならない。一度きりの観光地にならないよう、観光客をお迎えする、十分おもてなしする、お見送りする、といった三拍子の「おもてなしの心」を具現化する必要があるだろう。

見学の後、美作三湯の一つ、湯の郷温泉の旅館にて懐石膳の昼食をとった。昼間からほろ酔い気分になり、温泉にもつかって極楽であった。その後、我々も武蔵に倣い、専門分野をもう一つ増やして「二刀流診断士」を目指そう！と心に誓って帰路に着いた。
(文責：大場一正)



支部だより

桜の季節も終わり（原稿を書いている今は満開ですが、花見に行きたい！）新年度に入って早一か月。皆様はいかがお過ごしでしょうか。

支部では、5月9日（金）の支部総会の準備に追われています。総会プログラムの作成や校正、監査の準備や手配・同席、総会当日の担当の決定等、やるべきことは結構あります。そのような作業を一生懸命やっておりますので、平日の夕方スタートでお忙しいとは思いますが（懇親会もありますし！）より多くの方々のご出席を心よりお待ちしております。

なお現在、会員リストの見直しも行っていきます。連絡先、住所、電話番号、メール・アドレス等、変更や追加、間違いがありましたら、事務局まで速やかにご連絡お願いいたします。（総務委員会）

平成15年度上期:各研究会スケジュール

● 自主研究会

問合せ先: 兵庫県支部 078 (361) 8034

日時	場所	テーマ	講師
5月6日(火) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 902号室	中小企業のM&A	大阪商工会議所 中小企業振興部 上谷 直己氏
6月2日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 902号室	中小企業団体中央会の取組み(企業組合等)	兵庫県中小企業団体中央会 事務局長 内海 清治氏
7月7日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター 902号室	診断士が知っておくべき特許流通情報	大阪府特許流通センター 小南 典子氏
9月1日(月) 18:00~20:00	神戸市産業振興センター	診断士の使いたいBSC(バランススコアカード)	兵庫県支部会員 松浦 敏貴氏

● 助言技法研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月9日(月) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 902号室	コーチング技術の習得4(ロールプレイ)	兵庫県支部会員 大森 啓司氏

● 診断技術向上研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月18日(水) 19:00~21:00	神戸市産業振興センター 804号室	Excelを活用したデータマイニング(1)	兵庫県支部会員 大森 啓司氏

● 経営法務研究会

日時	場所	テーマ	講師
5月22日(木) 19:00~20:30	生活創造館(神戸クリスタルタワー) 5階 B会議室	取引関連法規について	兵庫県支部会員 大西 政通氏
7月24日(木) 19:00~20:30	生活創造館(神戸クリスタルタワー) 5階 A会議室	特定非営利活動促進法と 介護保険法について	兵庫県支部副支部長 井上 雅晴氏

● コンサル技法研究会

日時	場所	テーマ	講師
6月20日(金) 18:00~20:00	クリスタルビル6F	社長に対するカウンセリング・ コーチング技術	兵庫県支部常任理事 大場 一正氏

編集後記

日本では年2回の節目があります。ひとつの節目は新年を迎える1月で、もう一つが多くの組織が新年度を迎える4月です。広報委員会の活動も4月を節目に新年度を迎えました。そこで、今回の「診断ひょうご」の編集会議は平成15年度の年間テーマの検討から始まりました。決定した年間テーマは、ずばり「再生」です。人の再生、組織の再生、企業の再生、社会の再生と、年間を通じ様々な角度で、多くの方のご意見や主張を発信していければと考えています。また、「再生」のイメージを、巷でよく使われている「リバイバル」という言葉ではなく、「リフレッシュ」という言葉に当てはめて、より明るく前向きにとらえていきたいと考えています。合わせて我々の広報活動もリフレッシュしていきますのでご期待ください。

もう一つ、ご報告があります。これまで広報委員会で力を尽くしてこられた富永裕さんが兵庫県支部の理事を辞任されました。1月に泰日経済技術振興協会(TPA)に赴かれ、タイ国における中小企業診断士養成に従事されることになったためです。富永さんは鋭い感性で広報活動を支えてこられました。大幅な戦力ダウンは我々としても辛いのですが、残ったメンバーでしっかり役割を果たしながら、次回お会いした時の土産話を楽しみにしたいと思います。富永さん、どうもありがとうございました。益々のご活躍をお祈り申し上げます。（広報委員 森 昭彦）